

最新事情

ビジネス社会で求められる実践力を
高度な資格や検定の挑戦で育む

長崎県立諫早商業高等学校

(長崎県諫早市)

今年創立75周年を迎える長崎県立諫早商業高等学校は、商業科と情報科、国際コミュニケーション科の3学科を擁し、地域に根ざして活躍する人材教育に取り組んでいる。全学科に共通するのが、ビジネス社会で通用する高度な資格や検定の取得に力を入れていること。「秘書検定」もその一つで、昨年度は団体優秀賞を受賞。同校の取り組みを取材した。



山本昇校長。

今年度、就任したばかり。「商業高校の強みを生かした人材教育をしていきたい」と意気込む

長崎県立諫早商業高等学校。
文武両道を掲げ、生徒たちは勉学と部活動に熱心に取り組む

「挑戦するときは、
日本一を目指してほしい」

昭和16年創立の長崎県立諫早商業高等学校は、地域の人から「諫商」と呼ばれ、長きにわたって親しまれている商業高校だ。商業科の他に国際コミュニケーション科と、県立高校で県内唯一の情報科がある。同校が目指す教育について山本昇校長はこう話す。

「商業高校である本校には、地域で活躍できる人材を育てることが求められています。年々、商業高校は減りつつあるのが実情です。そうした状況でも今年創立75周年を迎えることができるのは、地域の方々の支えやOB・OGの頑張りと活躍があるからだと思います。感謝の気持ちを忘れず、地域に貢献でき、地元で大いに活躍してくれる人材を育てていきたいです」。

同校の生徒数は約700名。生徒のほとんどが部活に加入していて、皆が真剣に取り組んでいる。全国大会や九州大会において優秀な成績を収めている部が多く、校長室や学校の玄関先には賞状や盾がずらりと並ぶ。

「勉学と部活動の両立を重視していることが本校の特徴です。生徒には『勉強でも部活でも、挑戦するときは日本一を目指そう』と伝えていきます。資格や検定の取得に力を入れていて、各科目で難易度が高い試験にも積極的に挑戦させています。情報科で導入している経済産業省主催の『応用情報技術者試験』は、社会人でも合格するのが難しい試験ですが、昨年度は本校から3名の合格者が出ました。こうした高度なレベルの試験に合格できることは、日本一のレベルに達した証明と言っても過言ではないと考えます。高校生活で何か一つでも目標が達成できれば、大きな自信につながることは間違いありません」と山本校長は表情を引き締めて語り、「今年度は三つの努力目標を掲げた」と話を続ける。

「一つ目が資格や検定の取得を含めた学業、二つ目が部活動での活躍、そして三つ目が思いやりを持つことです。三つ目の『思いやり』は相手を気遣い、周りに感謝する気持ちを指します。資格の取得や部活動は団体戦ですから、学び合いに、励まし合うといった思いやりを身に付けるのに絶好の機会です。習得した知識を生かすためにも、コミュニケーション力を高めて、社会でも役立ててほしいと思います」。



秘書検定の指導を担当する吉田眞八先生。指導の工夫はもちろん、サポート体制を整えることも熱心だ



学校の玄関にある「平成27年度秘書検定団体優秀賞」の張り紙。生徒の頑張りが、来校者に一目で分かる

秘書検定で毎年、100名近い合格者を輩出！

山本校長の話にあったように、同校が力を入れているのが資格や検定の取得だ。商業科では全商の検定に限らず、日本商工会議所主催の「簿記検定2級」「販売士検定3級」や、金融財政事情研究会主催の「FP検定3級」などの難易度が高い検定にも挑戦し、毎年多くの生徒が合格している。



(左から)商業科2年生の緒方真帆さん、3年生の立石志野さん、3年生の村山友梨さん。3人とも学業に加え、部活動も頑張っている

同じように合格者が多いのが、「秘書検定」だ。商業科では2、3年生の課題研究で秘書検定を導入し、2級と3級の合格を目指している。また同科では毎週月曜日の放課後に、かんじょう塾を開講し、各資格取得に向けた講座を展開しているため、課題研究で秘書検定を選択していても、挑戦できる環境が整っている。

さらに他学科の生徒も秘書検定に挑戦できるよう、長期休業中や土日・祝日に補習を実施し、受験希望者の意欲をサポート。「先ほどお話しした、努力目標の三つ目である『思いやり』は、秘書検定でも学ぶことが可能ですから、多くの生徒に挑戦してほしいです」と山本校長は話す。課題研究や補習で指導を担当するのが、進路指導主事でもある商業科の吉田眞八先生だ。「本校が本格的に秘書検定を導入したのは3年前です。きっかけは、『ビジネス社会で通用する検定を取り入れたらどうか』という民間企業出身の元校長の提案でした。その提案を受け、秘書検定の内容を見たところ、働く上で必要とされる知識ばかり。敬語や職務知識はもちろん、気遣いや配慮を学ぶことができるため、『これは役立つ！』と思いました。企業や団体の採用担当者からも秘書検定の評価は高いため、継続的に同検定を導入しています」。

同校では秘書検定を取り入れて以来、2級、3級合わせて毎年100名近い合格者を出している。吉田先生は指導についてこう話す。「習得した知識を社会で生かすことができるよ

う、基礎からきちんと理解させることが大切だ」と思います。当初は2級から挑戦させていたのですが、やはり基本的な知識がないと解けない問題も多かったため、今は3級から挑戦させています。理論の問題は、生徒が手こずりやすいため時間を割いて解説。記述式の問題は生徒の解答を必ず添削しています」。

吉田先生は、お辞儀や名刺交換、電話応対などの実技指導にも力を入れている。「あいさつやお辞儀の仕方は、正しい角度でお辞儀できているか、立ち方は間違っていないか、一人一人細かく確認しています。生徒同士が互いの動作をチェックするのも効果的で、さまざまな気付きにつながります。名刺交換の練習では、生徒手作りの名刺を使っています。架空の会社名と業務内容などを盛り込んであり、ユニークな名刺に仕上がっています。不祝儀袋や祝儀袋は見たことがなかったり触れたことがない生徒が多いため、必ず現物を見せて解説。とにかく現物を手に取って、実際に確認させることが大切だと思います。その方が生徒の理解が深まり、実践で役立つはずですよ。今後はお茶の入れ方、出し方の実習を外部講師を招いて行う予定です」。

吉田先生の指導がここまで丁寧な理由は、秘書検定の内容が実社会で役立つものであり、いずれ社会に出る生徒にとって必要不可欠であるという確信があるからだ。「教師一筋ですから、企業や組織でどのように

振る舞うべきか、どういったルールがあり、どのような職務態度が求められるのか、分からないことも多くありました。しかし、秘書検定を教える立場になった今、自分でも学習するようになり、目からうろこが落ちることが多々あるのです。検定が企業からの評価が高いこともうなずけます」。

生徒の頑張り と挑戦する意欲を無駄にしない

秘書検定に厚い信頼を寄せて指導に取り組む吉田先生。その熱意は生徒にも届いている。秘書検定に合格した商業科の生徒に話を聞いた。

3年生の立石志野さんと村山友梨さんは2年生のときに課題研究で「秘書検定」を選択し、2級に合格した。立石さんは秘書検定の学習をこう振り返る。「普段見慣れない文字がずらりと並ぶテキストを見たとき、少し不安になったのを覚えています。特に心配だったのが敬語ですが、社会では必要不可欠な知識ですし、習得できれば有利になると思い、頑張りました」。

村山さんは学習を通して多くのことを得たようだ。「卒業後は就職を希望していて、事務職に就きたいと考えています。そのため、あいさつ文の書き方や、電話対応の仕方を学べたのが大きな収穫でした。社会で必要とされるビジネスマナーと、立ち居振る舞いを学ぶことができてよかったです。お辞儀や名刺交換など、実技で学んだことも役立てていきたいです」。

2年生の緒方真帆さんは、1年生の夏休みに秘書検定の補習を受けて3級に合格した。

「夏休みに資格の勉強をしようと決意し、秘書検定に挑戦することにしました。秘書検定を選んだ理由は、どのような仕事にも役立つ知識が身に付くと思ったからです。3級は基本的な内容が多かったので取り組みやすかったですし、吉田先生の補習が分かりやすかったので、挑戦してよかったですと思っています」。

3人は部活動にも熱心で「勉強の時間を確保するのが難しかった」と話すが、「今後は上位級に挑戦したい」と口をそろえる。笑顔で礼儀正しく、ハキハキと答える姿が印象的で、学校生活が充実している様子が見て取れた。

資格の取得以外にも同校の特徴的な取り組みはある。数ある取り組みの中から、商業科の伝統的な取り組みをご紹介します。それが毎年、文化祭に登場する「諫商商店街」だ。

「販売実習である『諫商商店街』は商業科が力を入れている取り組みの一つです。商業科3年生の生徒が16のグループに分かれ、販売する商品を決めることからスタートし、仕入れ、店舗運営、決算の作業を行います。『総合実践』『マーケティング』の授業の一環で、4〜6月は販売士検定の3級と2級に取り組み、7月から本格的に店の準備を始めます。終了後は他グループに向け、自分たちの活動内容を振り返り、実習の成果をアピールするためのプレゼンテーションを実施。プレゼンが一番よかったチーム

は代表として、後輩にもプレゼンを行い、次年度の参考にしてもらいます。この実習では、販売士検定の内容はもちろん、地域の方とも触れ合うので、秘書検定で学んだ言葉遣いやマナーも役立ちます。商業科での学びが、実務で役立つことを生徒たちは実感します」と吉田先生は話し、指導の意気込みをこう話す。

「本校の生徒は学校の勉強に加え、資格や検定に挑戦しながら部活にも参加します。全て同時並行ですから、時間のやりくりは大変です。それでも逃げ出さないのは、知識を習得することの重要性や、仲間と励まし合いながら挑戦することの大切さを理解しているから。生徒たちの頑張りや挑戦する意欲を無駄にしないために、今後も指導に力を入れていきます」。

「諫商商店街」は、毎年10月に開催される文化祭で登場。毎年楽しみにしている保護者や地域の人が多く、にぎわいを見せる。終了後は報告会を実施。商業科での学びをここで発揮する

